

—2018年8月28日—

2018年度～2021年度中期経営政策 「New-Zetwork」を策定

全労済（全国労働者共済生活協同組合連合会 代表理事理事長：中世古 廣司）は、2018年度～2021年度中期経営政策「New-Zetwork」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

本政策は、2014年度～2017年度中期経営政策「Zetwork-60」の達成状況と取り巻く環境を踏まえ、「共済事業を核に、運動を広め、理念の実現をめざす」という社会的使命を果たすための中期的な経営方針として位置付けています。

さまざまな環境の変化や時代の変化に柔軟・機敏に対応するため、「お役立ち」発想と「共創」活動による新しい事業と運動（Zetworkスタイル）を創りあげ、展開してまいります。

なお、具体的な内容は「別紙」をご覧ください。

■ New-Zetwork のロゴ



- 前中期経営政策「Zetwork-60」を継承し、創立60周年を経て、生まれ変わる新しい（New）全労済（Z）を表現しています。
- ロゴ下部の3色のCは、「New-Communication、New-Cooperative、New-Culture」がNew-Zetworkを支え、さらに促進させていくことを表現しています。
- 全労済公式キャラクターのピットくんは、Zetworkスタイルにより実現をめざす未来を見据えています。
- New-Zetworkの略式表記は「New-Z」とします。

New-Zetwork

2018-2021

<2018年度～2021年度中期経営政策>

Zetwork-60からNew-Zetworkへ

2014年度～2017年度を中期経営政策期間と定め、「Zetwork-60」と呼称した。この期間において、3つの改革目標(事業構造改革、組織改革、意識改革)を掲げて、より一層魅力ある「保障の生協」となるために取り組み、一定の成果と課題が明らかになった。一方で、少子高齢化をはじめとした社会環境の変化は、今後の組合員の生活や全労済の事業・運動に大きな影響をおよぼすことが想定される。

そこで、全労済ではZetwork-60を継承し、**2018年度からの4年間を対象とした「New-Zetwork (2018年度～2021年度中期経営政策)」**を設定する。



全労済の原点である共済(たすけあいの仕組み)の普及・拡大は、たすけあいの輪を広げる運動そのものである。New-Zetworkでは、「共済事業を核に、運動を広め、理念の実現をめざす」という社会的使命を果たすため、時代の変化に対応した新しい全労済を創りあげる。その新しい事業と運動による全労済の姿を「Zetworkスタイル」と名付ける。

「Zetworkスタイル」とは

さまざまな環境の変化に対して**お役立ち発想**と**共創活動**で柔軟・機敏に対応し、事業・運動を展開する。

- ①全労済の事業と運動の普遍的な姿
- ②新しい事業と運動を組合員・協力団体・社会と共有し、さらに共創していく姿
- ③新しい事業と運動を実践する全労済グループの役職員・パートナー職員の考え方・行動

お役立ち発想

組合員・協力団体等と向き合うすべての場面において、相手方の課題やニーズを把握し、その気持ちに立って期待を超える解決策を考え、実行すること

共創活動

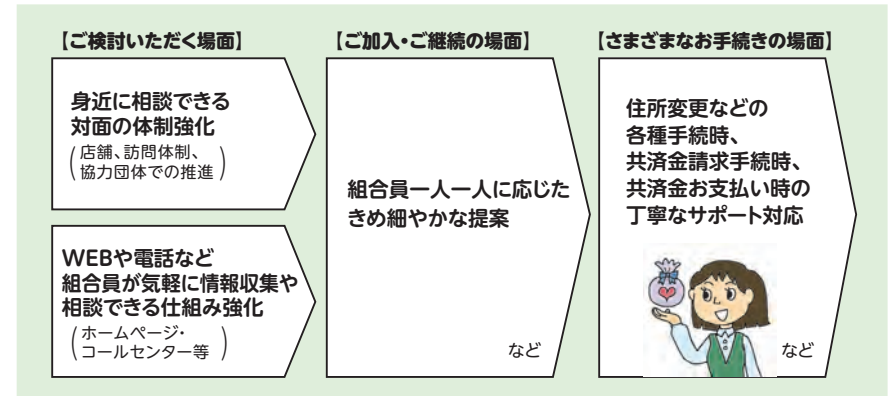
全労済単独では実現できないさまざまな課題に対し、組合員・協力団体・協同組合組織等がそれぞれの強みを持ち寄り、お互いをカバーしながら、共通の価値を創造すること

全労済

Zetworkスタイルでめざす事業

組合員と向き合うすべての場面において業務・ご案内の点検を行い、組合員に寄り添う対応と、ニーズに応えた商品・サービスの提供により共済利用を促進する。

◎ 組合員に向き合い寄り添う「総お役立ち活動」◎



Zetworkスタイルでめざす運動

労働者自主福祉をさらに進めるとともに、生活者への自主福祉を強化するため、協同組合組織等と連携し、地域における「たすけあい」を進める。

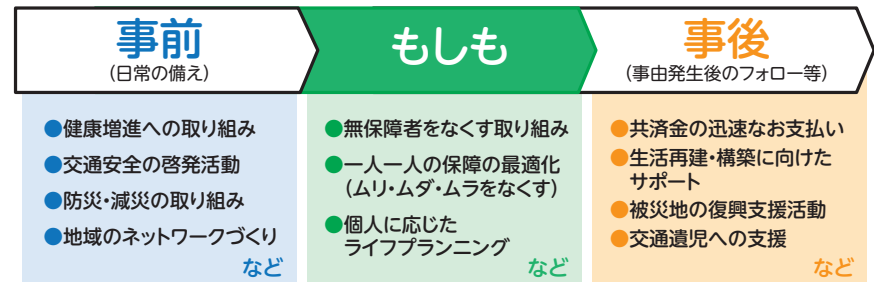
【1】新しい生活保障設計の取り組み

従来の「もしも」の経済的保障だけでなく、社会の変化を捉え、事前(日常の備え)や事後(事由発生後のフォロー等)の安心を商品・組合員サービス・情報などでトータルに提供する。
また、組合員一人一人の生活スタイル(世帯構成や収入、価値観等)に合わせて安心を提供する。

【2】持続可能な社会づくり・セーフティネットづくりの取り組み

国際目標であるSDGsの「誰一人取り残さない」社会づくりに向け、持続可能な社会づくり、セーフティネットづくりに取り組む。 ※2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標。

◎ 新しい生活保障設計の取り組み・セーフティネットづくり ◎



3) New-Zetworkの全体イメージ



組合員の幸せ

組合員の暮らしの豊かさや安心を高め、
幸せな生活を実現する。

みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり

組合員や協力団体等と
一緒に進んでいく
組合員・協力団体等と共創活動を進める。



New-Zetworkの目的

Zetworkスタイルの構築と展開により、事業の持続的成長と運動の発展を図る

New-Zetworkの目標(2021年度)

受入共済掛金	保有契約件数	保有契約口数	新規組合員数(4年間)
5,621億円	2,870万件	38.9億口	250万人

新しい全労済の姿 <New-Value>

New-Communication

組合員・生活者との身近さを高める取り組み

Zetworkスタイル ~お役立ちと共創で、事業と運動を変革~

組合員一人一人に寄り添い、より身近な存在として組合員との「深く」「長く」関係づくりを進め、
その力をもって「広く」事業と運動の発展をめざす。

New-Cooperative

より多くの組織との理念を共有した取り組み

たすけあいの輪が
広がる

協力団体

労働組合
組織

ろうきん

NPO等

意見

組合員

共創

要望

生協

協同組合
組織

指定整備
工場

その他
団体組織

たすけあいの輪が
広がる

1) 取り巻く環境の変化に対応した、組合員・協力団体のニーズに応える安心の商品・サービスを提供する

- (1) 組合員・協力団体のニーズにあった商品・サービスを開発・提供する。
- (2) より簡単・便利でわかりやすい制度の仕組みづくりを行う。
- (3) 今後の環境変化を見据えた商品・サービスを研究・検討する。

2) さらに、身近に安心して利用いただけるよう、組合員の皆さま一人一人にあったコミュニケーションを進める

- (1) 組合員一人一人の生活スタイルに合わせたきめ細やかな提案とサポートで、さらなる安心を提供する。
- (2) 協力団体・共済代理店との共創活動と推進チャネルの強化により、共済の利用促進をはかる。

3) 検討から加入、契約の終了までのすべての場面において、組合員視点でのお役立ちの品質を提供する

- (1) 組合員の皆さまと接するさまざまな場面における対応やご案内の点検・見直しを行い、期待を超えるお役立ち品質を提供する。
- (2) さらなる品質の向上に向け、ITの活用などの取り組みを進める。

7) セーフティネットづくりに向けて地域のさまざまな課題に取り組む

- (1) 「誰一人取り残さない」社会づくりに向け、さまざまな社会問題に積極的に取り組む。
- (2) 組合員・協力団体・協同組合組織等との共創により、たすけあいの輪を広げる。

4) 組合員や協力団体の声を事業と運動に活かす

- (1) 組合員や協力団体の声を事業と運動に活かす取り組みを進める。
- (2) 組合員によるたすけあいを促進するため、コミュニケーションの活性化とネットワークづくりを進める。

5) お役立ちと共創を実践し、事業と運動の担い手となる人材育成と組織づくりを進める

- (1) 高い専門性とマインドをもち、「お役立ち」と「共創」を実践する人材育成を進める。
- (2) 多様な働き方の追求とさらなる組織づくりを進める。

6) 将来にわたって安心を提供し続けるため、健全で安定した事業構造・事業基盤づくりを進める

- (1) 超大規模な自然災害など、さまざまなリスクへの対応に必要な財源の積み立て・自己資本の強化に取り組む。
- (2) 事業経費の効率的な活用に向け、事業経費構造の見直しを行う。
- (3) 効率的な組織運営と適切な業務運営に向け、組織機構・体制を見直す。
- (4) 全労済グループにおける基本三法人・関連事業会社のあり方の検討を行う。

全労済

「お役立ち」
発想

「共創」
活動

<全労済ブランドの向上の取り組み>

ブランドネーム・ロゴ・キャラクターをはじめとする全労済ブランド全体の見直しを行い、お役立ちと共創で創り出す新しい全労済の姿(Zetworkスタイル)を広く組合員・社会へ発信する。

New-Culture

困難な環境下でもNew-Valueにチャレンジする人材・組織づくり

たすけあいの輪が
広がる

たすけあいの輪が
広がる